

明倫小だより

第 特集 1 号
20. 5. 28
倉吉市余戸谷町3059
☎ 22-6175

いきいき わくわく 明倫の子ども

- あ 明るく元気な子 (健やかな体)
- お 思いやりのある子 (豊かな心)
- い いっぱい学ぶ子 (確かな学力)
- そら 「そらやるぞ」の意欲 (たくましさ)

明倫のめざす学校像

- 一人一人が大切にされ、心の居場所のある学校
- 意欲的に学び、確かな学力を身につける学校
- うるおいと楽しさのある学校
- 地域から信頼される開かれた学校

明倫小学校！？

「明倫小学校」といえば、倉吉市内の旧市街地に位置し、古い家並みや小鴨川等恵まれた自然の中にある学校。校庭の傍らに「五倫の森」があり、「教科書まつり」をしている学校。合唱団などの音楽活動や各種のスポーツ大会で子ども達が活躍している学校。(自画自賛も含めて)このようなことが一般的なところではないでしょうか。倉吉市立明倫小学校は成徳小学校から分かれてから創立99年目、学校としてももうすぐ100歳になります。

ところで、倉吉市立明倫小学校のことをご存じない方でも「明倫小学校」というと「伝統のある学校でしょう」と言われる方がいます。言われた方は、どんなイメージを持っておられるのでしょうか。

インターネットで「明倫小学校」を検索すると24万件ほどデータが出てきました。もちろん、倉吉市立明倫小学校のホームページもあります。他にも倉吉市立明倫小学校関係では「五倫の森」「教科書まつり」「合唱団」のことが出てきます。数は調べたことはありませんが、全国にはたくさんの明倫小学校があると思います。インターネットで検索しただけでも北海道幕別町、宇都宮市、静岡県小山町、名古屋市、愛知県東海市、伊勢市、舞鶴市、福井県若桜町、大阪府枚方市、山口県萩市・長門市・三隅町、愛媛県宇和島市、佐賀県賀島市等に明倫小学校があります。鳥取県内にも日野郡江府町にも児童数40名弱の明倫小学校があります。

学校の歴史や児童数などまちまちでしょうが、それぞれの「明倫小学校」としての歴史を持ちながら特色ある学校づくりが進められていると思います。右の写真は萩市にある明倫小学校です。この学校は、江戸時代の藩学明倫館の流れをくみ、明倫館に開校された学校です。

全国各地にある「明倫小学校」、倉吉市立明倫小学校も「あおいそら いきいき、わくわく、明倫」をめざし学校づくりを進めています。(平成18年度「明倫小だより第11号」を一部修正したものです)



<萩市立明倫小学校>

明倫小学校校歌

正門を入れて正面右側(玄関西側)に明倫小学校校歌の歌碑があるのをご存じでしょうか。この歌碑は、明倫小学校創立80周年の記念として、平成元年にできたものです。文字は、明倫小学校に27年間勤務された長谷川富三郎先生(鳥取県を代表する板画家でもあり、平成15年に鳥取県文化功労賞を受賞)の版面の文字で、石に彫り込んだものです。

さて、明倫小学校校歌は昭和6年に河本緑石作詞、山本弥吉原曲、江本登喜雄(明倫小学校第11代校長)編曲によって制定されました。作詞者の河本緑石(本名義行)は、俳人として有名です。倉吉生まれの

緑石は、盛岡高等農林学校(岩手県)へ進学し、後に日本を代表する詩人・童話作家の宮沢賢治と出会い、同人文芸誌「アザリア」を通じて互いに影響を与え合いました。緑石は卒業後、倉吉に帰り県立倉吉農学校で教鞭をとる傍ら、中井金三・前田寛二らと起こした「砂丘社」で雑誌「砂丘」を発行して俳句、絵画、作曲など多彩な才能を発揮しています。

制定されてから70年以上になる校歌ですが、「あおいそら あおいそら・・・」と歌う度に素晴らしい詞と曲に感動し、明倫小学校の歴史と伝統の重さを実感しています。

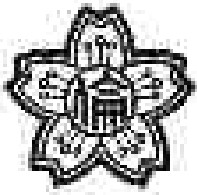


<正門近くの校歌碑>

(平成17年度「明倫小だより第9号」を一部修正したものです。校歌の歌詞は次のページです。)

校歌

一	あおいそら	さくらさきみち	われらいま	のぞみはたかし	あおいそら	さくらさきみち	あおいそら	河本緑石	作詞
二	あおいそら	さくらさきみち	われらいま	のぞみはたかし	あおいそら	さくらさきみち	あおいそら	山本弥吉	原曲
三	あおいそら	さくらさきみち	われらいま	のぞみはたかし	あおいそら	さくらさきみち	あおいそら	江本登喜雄	編曲
四	あおいそら	さくらさきみち	われらいま	のぞみはたかし	あおいそら	さくらさきみち	あおいそら		



校章の秘密

明治42年4月7日に制定された校章には次のような思いが込められています。

「明」とは、物事を明らかにするということである。

「倫」とは、人の踏むべき正しい道（徳）のことを表している。

5枚の花びらには、「人倫五徳を養い、これを明らかにするにあり」と沿革誌の中に記され、明らかにする事柄が、五つ（五徳）あるとしています。

明倫小学校の校章は、「倫」を中心に、5枚の桜の花びらが配置されているのもこういった精神を表したものであり、「人の踏むべき正しい道を身につけ、世の中の役に立つ人間になって欲しい」という願いが込められているのです。

それでは、五徳とは、何でしょう。

- ① 父子においては、子は孝を尽くし、
- ② 君臣においては、臣の踏むべき正しい道を明確にし、臣は忠誠を尽くす。
- ③ 夫婦においては、夫と妻が互いに馴れ合わず、互いに尊敬し、
- ④ 長幼においては、年齢の上下を意識して、若い者は年上の者を尊敬し、
- ⑤ 盟友においては、友情とはどうあるべきかを明らかにし、互いに真義を重んじる。

（平成15年度「明倫小だより第2号」を一部修正したものです）

ふるさと めいりん

6年生のめいりんタイム（総合的な学習の時間）では、自分たちの住んでいる明倫地区のこともっとよく知るための学習をしています。9月22日（木）には、倉吉市教育委員会文化財課の森下哲哉さんをゲストティーチャーに迎え、「伊能忠敬と八橋往来」というテーマで学習をしました。

国の重要伝統的建造物保存地区（文化財保護の一環として歴史的町並み保存地区として選定され、現在全国で69地区）である打吹地区と八橋・赤碕を結ぶ「八橋往来」沿いには江戸時代に建てられた民家や町屋をはじめ、明治時代から昭和時代初期に建てられた文化財としても貴重な建造物が残っています。また、八橋往来は、国の「夢街道ルネサンス」にも認定され、町の景観を生かしたハード整備事業を進めているところです。

子ども達は、江戸時代（今から約190年程前）に正確な日本地図をつくったことで有名な伊能忠敬が測量した八橋街道やその周辺を歩きながら、様々な発見をしたことと思います。

これから学習のまとめをしていくのですが、町並みや建造物を通して明倫地区や倉吉の歴史や伝統文化について考えたり、人々の暮らしやまちづくりへの思いを理解するとともに、ふるさとへの愛着がこれまで以上に芽生えるよい機会としたいものです。

（平成17年度「明倫小だより第10号」を一部修正したものです）



<明倫地区の学習をする6年生>